

臨床研究

「課題名: 肝癌に対する化学療法の治療効果を予測するバイオマーカーの探索」について

○研究の目的・意義:

この研究は、肝がんに対して抗がん剤を行う際に、免疫細胞のはたらき、体内にあるたんぱく質のはたらき、生まれながらに持っている体質を規定する遺伝子など、治療効果と関係するもの（バイオマーカー）があるかどうかを知るために行います。具体的には、手術や組織検査（生検）で取り出した、肝がんもしくは肝臓の一部から免疫細胞を取り出して調べます。肝がんや慢性肝疾患には、バイオマーカーとなる物質がまだ少なく、新しいバイオマーカーをさがす研究がすすめられています。薬の効きやすさを・効きにくさを、バイオマーカーを調べることで、あらかじめ知ることができる可能性があり、今後の肝がん治療にたいへん役立つと考えられます。

○研究対象者:

過去、広島大学病院 消化器・代謝内科で抗がん剤治療を受けられた肝がんの患者さんのうち、肝がんの組織検査や手術を受けておられる患者さん。

○研究方法:

肝がんに対する抗がん剤治療の治療効果に結びつくバイオマーカーを調べるために、手術や生検などを受けて採取された検体から、ごく一部（約5mm角、約100ミリグラム）の組織を提供して頂き、その中にあるあなた自身の免疫細胞（リンパ球）を集めて、そのリンパ球のはたらき具合・遺伝子・特徴的な物質を詳しく調べます。免疫細胞を集めて、場合によっては凍結保存を行います。リンパ球に含まれるたんぱく質や核酸という物質を取

り出して、その働きを調べます。また、診療録（カルテ）の情報も調査して行います。カルテから使用する内容は肝がんの組織を採取した頃の病状や治療に関わる情報です。個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ。

以下の機関と共同で研究します。

国立がん研究センター 先端医療開発センター 免疫トランスレーショナルリサーチ分野

○研究期間:

2018年2月（倫理委員会承認後）～2023年3月31日

○個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありません。本研究に検体や診療情報の利用を同意されない方は、下記連絡先にお申し出ください。申し出られても、今後の診療に不利益を被ることはありません。